

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築史	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	2単位(36時間)	開講・履修期	2025年度・1年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	金谷 匡高（行政で建築文化財を担当し、研究機関では建築・都市の歴史を調査研究している経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	建築の過去から現代に至る大きな歴史の流れを理解し、現在から未来を見通す視野を獲得する事を目的とする。現代建築を確立するには、多くの先人・建築家・工匠・技術者らによる多くの格闘があり、その結果としての作品及び諸著作がある。それらを知り学ぶ事により、これからの建築を考える判断の土台となる端緒を自らの内に獲得する事を目的とする。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、演習の時間を取り入れる。また、講義では配布資料及びテキストを用いる。分かりにくい部分はスライドなどの教材を利用し学生の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
～第4回	1. 日本建築史	導入 古代一飛鳥・奈良建築 古代一神社建築・平安京と寝殿造 寺院建築一古代から中世へ 中世の建築様式 寝殿造から書院造へ 茶室と数寄屋 近世の都市と建築 庶民の住居と町並
～第8回	2. 日本近代建築史	明治維新と洋風建築 西洋建築建設と日本人建築家誕生 伝統建築の再評価 日本分離派建築会 関東震災後の都市・建築 近代和風建築 戦後日本の建築と都市 現代日本の建築
～第12回	3. 西洋建築史	保存制度と建築・都市・景観 古代建築1(ローマ) 古代建築2(ギリシア) 初期キリスト・ビザンチン エジプト・オリエント・イスラム ロマネスク ゴシック ルネサンス・マニエリスム 古典主義建築
～第18回	4. 西洋近代建築史	初期工業化時代 リヴァイヴァリズム 近代運動 前衛運動 工業化社会の建築 戦後・現代の建築1 戦後・現代の建築2 補講

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築計画Ⅰ	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	4単位(72時間)	開講・履修期	2025年度・1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	加畑 誠一（建築設計事務所で、住宅、事務所、工場等の設計・監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	独立住宅の基本計画ができるようにする。建築計画の基礎知識を修得し、グリッドプランニングの手法を身に付ける。標準的な2階建て住宅が計画できるようにする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、演習の時間も適宜取り入れる。また、テキストだけでは分かりにくい部分は、スライドやDVDなどの教材を利用し学生の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業内容の解説
第2回	建築家とは	職業としての建築家
第3回	物品の寸法	身近な家具と自動車の寸法
第4回		樹木に関しての基礎知識
第5回	計画一般	計画の進め方
第6回		動線計画、動線分離の原則
第7回	グリッドプランニング	グリッドプランニングの手法
第8回		グリッドを用いた平面計画1
第9回		グリッドを用いた平面計画2
第10回		グリッドを用いた平面計画3
第11回	各部計画	人体寸法、行動空間、4つの姿勢と各部の高さ
第12回		各室の必要床面積(面積原単位)
第13回		住宅の歩行空間の寸法
第14回		住宅の平面の型
第15回		階段の種類と法規制
第16回		階段の種類と法規制
第17回		開口部(窓)(出入口)
第18回		各部計画のまとめ
第19回	独立住宅	配置計画
第20回		外構計画
第21回		平面計画とゾーニング
第22回		動線計画
第23回		各室の計画:玄関
第24回		各室の計画:ホール、廊下
第25回		各室の計画:居間
第26回		各室の計画:食事室
第27回		各室の計画:台所
第28回		各室の計画:便所
第29回		各室の計画:洗面脱衣所
第30回		各室の計画:浴室
第31回		各室の計画:家事室
第32回		各室の計画:主寝室
第33回		各室の計画:子供室
第34回		各室の計画:和室
第35回		各室の計画:その他の室
第36回		独立住宅のまとめ

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築環境工学Ⅰ	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	2単位(36時間)	開講・履修期	2025年度・1年(後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	奥田 祥吾（主宰する建築設計事務所で、様々な設計監理業務に従事した経験を活かした授業を行う。）				
授業の到達目標	近年の建築では、省エネや省資源といった視点が不可欠になっている。建築を取り巻く基礎的な環境を理解し、建築設計に役立てることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回 第2回	建築環境工学とは	建築環境工学の目的と構成を解説。 建築計画との連携。建築設備との違いを解説する。
第3回 ～第6回	都市・地球環境	建物を取り巻く外界気象について解説 気温や湿度の一日の変化について解説 クリモグラフ、デグリーデー、風配図、陸風、海風について解説 ヒートアイランド、地球温暖化の現象・原因について解説 ビル風、LCA、LCCO2などの用語解説
第7回 ～第10回	日照・日射環境	地球と太陽の関係について解説。 太陽の運行、太陽定数、太陽位置図などの解説。 日照の確保。日影曲線、日差し曲線を用いた日照条件の検討。 直達日射、天空日射、方位による日射特性を解説。 日射調節の解説。
第11回 ～第15回	光環境	測光量、比視感度、プルキンエ現象、光度、光束など用語の解説。 照度の逆二乗則などの解説。 明視の4条件、グレア、光幕反射、均せい度、モデリング、適正輝度比等の解説。 JISによる照度基準の紹介。 採光計画、全天空照度、昼光率、立体角投射率、頂側窓、ライトシェルフ等の解説。 色温度、人工照明の種類と特徴、人工照明による照明計画、タスクアンビエント照明、照明計算の演習。
第16回 ～第18回	色彩環境	有彩色、無彩色、加法混色と減法混色の解説。 各種表色系(マンセル、XYZ、オスワルト、PCCS)の紹介と特徴の解説。 色による感覚(重量感、寒暖感、興奮・沈静感など)の紹介。面積効果、対比、同化、誘目性、補色などの解説。

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築法規Ⅰ	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	4単位(72時間)	開講・履修期	2025年度・1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	木村 鉄哉(建築設計事務所で、主に公共建築や大規模建築の設計監理業務で培った経験を活かす授業を行う。)				
授業の到達目標	建築関係法令集を用語の意味を調べる国語辞典のように活用し、身近な建築物が建築基準法の必要最低基準をクリアしていることを理解する。また例題及び演習問題には、一級・二級建築士の過去問題を参考にし、実務の場面でも十分に対応できる指導内容とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	初回ガイダンス	・インデックスの貼り方、法令集の構成
第2回	用語の定義①	・法律用語
第3回	用語の定義②	・建築物、特殊建築物、主要構造部、居室、建築、大規模の修繕、大規模の模様替え 等
第4回	用語の定義③	・延焼のおそれのある部分、耐火建築物、準耐火建築物 等
第5回	用語の定義④	・敷地、地階、地盤面、避難階 等
第6回	面積及び高さ等①	・面積の算定：敷地面積・建築面積・床面積・延べ面積の算定方法
第7回	面積及び高さ等②	・高さ等の算定：高さ・軒の高さ・階数・地盤面の算定方法①
第8回	面積及び高さ等③	・高さ等の算定：高さ・軒の高さ・階数・地盤面の算定方法②
第9回	一般構造規定①	・居室の天井高さ及び床の高さ：法令上必要な最低高さ
第10回	一般構造規定②	・階段：階段に関する用語及び階段の設計方法
第11回	一般構造規定③	・廊下：建築物の用途による廊下の幅
第12回	一般構造規定④	・居室の採光：採光の目的及び有効採光面積の算定方法①
第13回	一般構造規定⑤	・居室の採光：採光の目的及び有効採光面積の算定方法②
第14回	一般構造規定⑥	・居室の換気：換気の目的及び換気方式の種類、石綿等に対する措置：石綿等の使用制限
第15回	敷地と道路①	・道路：道路の種類及び構造基準
第16回	敷地と道路②	・敷地と道路：接道義務の目的及び接道条件
第17回	敷地と道路③	・道路内の建築制限：例外的に、道路内に建てられる建築物等
第18回	敷地と道路④	・私道の変更または廃止の制限
第19回	敷地と道路⑤	・壁面線：壁面線の目的、及び壁面線の成立条件
第20回	用途地域①	・用途地域内の建築制限：用途地域の目的及び用途地域による建築物の建築可否判定方法
第21回	用途地域②	・敷地が異なる用途地域にわたる場合：敷地が異なる用途地域にわたる場合の建築制限
第22回	用途地域③	・卸売り市場等の用途に供する特殊建築物の位置：卸売市場等の特殊施設の建築制限
第23回	建ぺい率①	・建ぺい率の限度：建ぺい率の目的
第24回	建ぺい率②	・建ぺい率による建築面積の算定：建ぺい率を用いた建築面積の算定方法
第25回	建ぺい率③	・建ぺい率の制限緩和：建ぺい率の制限が緩和される条件
第26回	建ぺい率④	・建ぺい率の除外規定：建ぺい率の制限の除外
第27回	容積率①	・容積率の限度：容積率の目的、及び容積率の種類
第28回	容積率②	・容積率による延べ面積の算定：容積率を用いた延べ面積の算定方法
第29回	容積率③	・特定道路の特例：容積率が增える為の一定条件
第30回	容積率④	・住宅地階の特例：住宅の地階が床面積の合計に算入されない為の条件
第31回	容積率⑤	・共同住宅の共用廊下・階段の特例：床面積の合計に算入されない為の条件
第32回	容積率⑥	・自動車車庫等の特例：自動車車庫が、床面積の合計に算入されない為の条件
第33回	建ぺい率・容積率等	・おさらいと演習問題
第34回	耐火建築物、準耐火建築物①	・耐火建築物又は準耐火建築物としなければならない特殊建築物①
第35回	耐火建築物、準耐火建築物②	・耐火建築物又は準耐火建築物としなければならない特殊建築物②
第36回	耐火建築物、準耐火建築物③	・耐火建築物又は準耐火建築物としなければならない特殊建築物③

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築構造力学Ⅰ	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	4単位(72時間)	開講・履修期	2025年度・1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	崎田 由紀（実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	建築物を設計するにあたって、「構造」に関する知識が大切であることを認識してもらう。そして、「構造」の基礎となっているのが「構造力学」であることを理解して、構造力学の基礎的な知識を習得してもらう。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、演習の時間も取り入れ、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	初回ガイダンス	授業の位置付け、評価方法、「建築構造設計」を学ぶにあたって
第2回	構造物に働く力	いろいろな建築物、建築物に働く力、力学的に見た建築物
第3回	力の基本①	力の3要素、力の図示、力の単位、力の符号
第4回	力の基本②	力のモーメント①
第5回	力の基本③	力のモーメント②、偶力のモーメント
第6回	力の基本④	力の合成と分解(1点に働く力の合成と分解)
第7回	力の基本⑤	力の合成と分解(バリニオンの定理) 平行な力の合成
第8回	力の基本⑥	力の合成と分解(バリニオンの定理) 平行な力の分解
第9回	力のつり合い	力のつり合い条件式
第10回	構造物と荷重および外力	各種の構造物、支点と接点、荷重および外力の種類
第11回	反力1	各支点に生じる反力の種類、反力の求め方
第12回	反力2	静定構造物(片持梁の集中荷重について)
第13回	反力3	静定構造物(片持梁の等分布荷重について)
第14回	反力4	静定構造物(単純梁の集中荷重について)
第15回	反力5	静定構造物(単純梁の等分布荷重について)
第16回	反力6	静定構造物(ラーメンフレームの集中荷重について)
第17回	反力7	静定構造物(ラーメンフレームの等分布荷重について)
第18回	反力8	静定構造物(トラスフレームについて)
第19回	反力9	静定構造物(3ピン式ラーメンフレームについて)
第20回	構造物に生じる力	力の種類、力の求め方と表し方
第21回	応力解析1～	静定構造物(片持梁の集中荷重について)解説
第22回		静定構造物(片持梁の集中荷重について)演習①
第23回		静定構造物(片持梁の集中荷重について)演習②
第24回		静定構造物(片持梁の集中荷重について)演習③
第25回	応力解析2～	静定構造物(片持梁の等分布荷重について)解説
第26回		静定構造物(片持梁の等分布荷重について)演習①
第27回		静定構造物(片持梁の等分布荷重について)演習②
第28回		静定構造物(片持梁の等分布荷重について)演習③
第29回	応力解析3～	静定構造物(単純梁の集中荷重について)解説
第30回		静定構造物(単純梁の集中荷重について)演習①
第31回		静定構造物(単純梁の集中荷重について)演習②
第32回		静定構造物(単純梁の集中荷重について)演習③
第33回	応力解析4～	静定構造物(単純梁の等分布荷重について)解説
第34回		静定構造物(単純梁の等分布荷重について)演習①
第35回		静定構造物(単純梁の等分布荷重について)演習②
第36回		静定構造物(単純梁の等分布荷重について)演習③

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築一般構造Ⅰ	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	4単位(72時間)	開講・履修期	2025年度・1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	藤江 航(建築設計事務所で、国内外の公共建築等の設計・デザイン・監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。) 有泉 太一郎(主宰する建築設計事務所で、様々な設計監理業務に従事した経験を活かした授業を行う。)				
授業の到達目標	建築構造全般、木構造、鉄筋コンクリート構造を中心に、建築物の骨組みや仕上げの構成を理解して、基礎的な知識を習得する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドや動画などの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず演習問題及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	建築工法の概論①	授業ガイダンス 構法と工法
第2回	建築工法の概論②	構法の変遷(1)
第3回	建築工法の概論③	構法の変遷(2)
第4回	建築構造の分類①	構造形式の分類・各荷重(1)
第5回	建築構造の分類②	構造形式の分類・各荷重(2) 演習問題
第6回	木質構造①	木構造の原理・構造形式
第7回	木質構造②	材料性質(1)
第8回	木質構造③	材料性質(2) 演習問題
第9回	木質構造④	地盤特性・基礎構造(1)
第10回	木質構造④	地盤特性・基礎構造(1)
第11回	木質構造⑤	軸組構法(1)
第12回	木質構造⑥	軸組構法(2)
第13回	木質構造⑦	軸組構法(3)
第14回	木質構造⑧	軸組構法(4) 演習問題
第15回	木質構造 補足①	枠組構法 木質系構造他(1)
第16回	木質構造 補足②	枠組構法 木質系構造他(2)
第17回	木質構造 補足③	枠組構法 木質系構造他(3)
第18回	講義のまとめ・復習	まとめ・復習講義 演習問題
第19回	鉄筋コンクリート構造①	RC造の原理・構造形式(1)
第20回	鉄筋コンクリート構造②	RC造の原理・構造形式(2)
第21回	鉄筋コンクリート構造③	材料性質(1)
第22回	鉄筋コンクリート構造④	材料性質(2)
第23回	鉄筋コンクリート構造⑤	材料性質(3) 演習問題
第24回	鉄筋コンクリート構造⑥	配筋(1)
第25回	鉄筋コンクリート構造⑦	配筋(2)
第26回	鉄筋コンクリート構造⑧	配筋(3)
第27回	鉄筋コンクリート構造⑨	配筋(4) 演習問題
第28回	鉄筋コンクリート構造⑩	基礎構造・特徴(1)
第29回	鉄筋コンクリート構造⑪	基礎構造・特徴(2)
第30回	鉄筋コンクリート構造⑫	主体構造(1)
第31回	鉄筋コンクリート構造⑬	主体構造(2)
第32回	鉄筋コンクリート構造⑭	主体構造(3) 演習問題
第33回	コンクリート系構造①	プレキャストコンクリート・コンクリートブロック他(1)
第34回	コンクリート系構造②	プレキャストコンクリート・コンクリートブロック他(2)
第35回	コンクリート系構造③	プレキャストコンクリート・コンクリートブロック他(3)
第36回	講義のまとめ・復習	まとめ・復習講義 演習問題

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	広域建築実務Ⅰ	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	3単位(46時間)	開講・履修期	2025年度:1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	仲本 国照(建築士事務所での施工図・仮設計画図・BIM作図および現場常駐等の実務経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	デジタルデザインに必要な、色や形、質感や配置などのデザイン要素、視覚要素を美しく特徴的によりよく配置するための統一や協調、バランスやリズムなどのデザイン原則を、パソコンを用いた複数のグラフィック系ソフトの課題制作を通して体感的に学習する。これらの知識と技術の取得から、表現者の意図をわかりやすく伝達できるデジタルデザイン(=プレゼンテーション)が可能となり、これらの自ら情報発信する側としての知識や方法論を身につける。				
授業の概要及び特徴	プレゼンテーションと印刷物を中心とした表現媒体において、適切で効果的な視覚情報伝達に必要なグラフィックデザイン、及び3Dの基礎知識と表現スキルを、パソコンを用いたグラフィック系アプリケーションソフトを使用した複数の演習課題を通して学習する。課題の振り返りを繰り返すことで、デザイン要素を確認しながら、デジタルデザインの技術を体感的に取得する。課題の最後には作品を提出し、提出された作品の中で特徴的なものを抽出し講評する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回 第2回	ガイダンス 概論 [Illustrator /AI] 概論 [Photoshop /Ps] 図形や線を描く [AI] オブジェクトの選択と基本的な変形 [AI] 色と透明度の設定 [AI] オブジェクトの編集と合成 [AI] 線と文字の設定 [AI]	授業で使用するソフトウェアの紹介/基本的な概念、つくり、なりたちを学ぶ Illustrator :ファイルの作成・保存、ツールバー、各種ウィンドウ、マウス操作など、画面の基本操作を紹介、簡単な図形などを描く(PC上で手を動かす) Photoshop :ファイルの作成・保存、ツールバー、各種ウィンドウ、マウス操作など、画面の基本操作を紹介、簡単な画像操作を行う(PC上で手を動かす) ・四角形、楕円、多角形、その他図形 ・直線 ・曲線 ・オブジェクトの選択 ・オブジェクトの変形 ・色の設定 ・グラデーション ・レイヤー ・オブジェクトの複製 ・きれいな整列 ・線の設定 ・線幅ツール、他 ・文字の入力、編集、レイアウト
～第12回	演習課題 [AI]	個人課題 [Illustrator] :名刺制作
第13回	概論 [SketchUp /SK]	マウス操作による指示の表記/キーボードによる指示の表記/ツール選択の表記
第14回	基本操作① [SK] 基本操作② [SK] 住宅のモデル① [SK] 住宅のモデル② [SK] 住宅のモデル③ [SK]	・立体モデル ・指定寸法の立体モデル ・1階モデルの作成 ・2階モデルと屋根の作成 ・リビング⇄道路の眺めの検討と近隣建物による影の確認
～第23回	B. 住宅のモデル④ [SK]	・建具のインポートとペイント

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週 前期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築製図Ⅰ	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	4単位(144時間)	開講・履修期	2025年度:1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	佐々木 由美子（設計事務所における厨房機器等の設計業務で培った経験を活かす授業を行う。） 小野澤 裕子（建築設計事務所で、住宅、店舗設計、マンションリフォーム業務に従事している経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	各種構造の基本や特徴を、実際の図面を模写することによって、より深く理解する。同時に図面を作成する時の決まりや記入すべき事項、さらに手書き図面の表現方法などを習得する。各種図面の読み方、図面相互関係の参照の方法、各部名称、納まり、各部詳細についても理解する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とする。木造用教材、鉄筋コンクリート用教材を使用し、各種構造の基本や特徴を、実際の図面を模写することによって、より深く理解する。これを理解し実感してもらうためには、期限内に課題を完成させることを最優先にしている。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業の位置付け、評価方法、線の練習
第2回	木造製図～	図面の名称・内容、図面の読み方、図面を描く上での注意点
第3回～	木造図面1～	配置図講義① 配置図講義②＋作図演習①
～第8回		配置図作図演習②
第9回～	木造図面2～	1階平面図講義① 1階平面図講義②＋作図演習①
～第14回		1階平面図作図演習②
第15回～		1階平面図作図演習③
～第18回		2階平面図講義①＋作図演習①
第19回～		2階平面図作図演習②
～第23回		2階平面図作図演習③
第24回～	木造図面3～	断面図/立面図講義① 断面図/立面図講義②＋作図演習①
～第29回		断面図/立面図作図演習②
第30回～	木造図面4～	断面図/立面図作図演習③ 矩計図講義① 矩計図講義②＋作図演習①
～第38回		矩計図作図演習②
第39回	鉄筋コンクリート造製図	矩計図作図演習③
第40回～	鉄筋コンクリート造図面1～	図面の名称・内容、図面の読み方、図面を描く上での注意点 配置図兼1階平面図講義① 配置図兼1階平面図講義②＋作図演習①
～第46回		配置図兼1階平面図作図演習②
第47回～	鉄筋コンクリート造図面2～	2階平面図講義① 2階平面図講義②＋作図演習①
～第53回		2階平面図作図演習②
第54回～	鉄筋コンクリート造図面3～	断面図、立面図講義① 断面図、立面図講義②＋作図演習①
～第63回		断面図、立面図作図演習②
第64回～	鉄筋コンクリート造図面4～	矩計図講義① 矩計図講義②＋作図演習①
～第72回		矩計図作図演習②

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築設計Ⅰ	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	4単位(144時間)	開講・履修期	2025年度:1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	宮野 人至(建築設計事務所で、公共建築、住宅、クリニック、事務所等の意匠設計及び監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。) 田中 宏明(実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	「建築設計Ⅰ」では、基礎を確立し設計の原点である、“自分で考え”“物を造り出す”方法を身に付けることを目的とする。具体的には、線の引き方から透視図の原理、模型の製作方法、図面の読み方・描き方、そしてゼロから現実の敷地に自分のコンセプトを基に建築物として完成させ、プレゼンテーションまでが出来ることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考建物の見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。作品は全て個人またはグループによる創作である。コンセプトを現実のカタチにまで造り上げることは、現在学んでいる多くの他の授業の統合である。これを理解し実感してもらうためには、期限内に作品を完成させることを最優先している。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ 第3回～	1. 初回ガイダンス 2. 人体スケール	・授業の位置付け、評価方法、「建築設計」を学ぶにあたって ・自分の体を実測し、寸法・スケール感を身に付ける 更に家具、什器等の実測を行い、出来る限り詳細に図面化できるように指導する
第7回～	3. 木造略断面図	・木造略断面図を描く事により、三角スケール・勾配定規などの 道具の使い方をマスターする
第11回～	4. 模型の作り方	・スタディ模型を基に第三者(施主)に対してプレゼンテーションが出来る美しい 模型を作る
第13回～	5. プレゼン用住宅模型	・スチレンボードによる、基本的なプレゼン用住宅模型の作成 ・模型作成テクニックや道具の紹介(インテリア、外構計画等)
第17回～	内観パースを描く	・簡単な内観パースを描くための一点透視図法を学び、実際に各自が自由に インテリアを考えながら作図を行う
第21回～	6. マンションの設計 及びインテリア	・躯体のみを与えられ、その内部に住宅の設計を行う ・主要な室、水廻り空間、外部空間の設計:機能と必要寸法の学習 ・家具の寸法と配置について ・図面表現、パースの作成について
第29回～ 第45回～ 第48回	7. 都市の住処 ～住宅+α新しい暮らし方	・要項説明、敷地調査 ・与えられた敷地と条件での理想的な小住宅の設計 ・コンセプトを簡単明瞭に作り、具体的なカタチへ ・エスキスは平面、断面、立面も同時に進める ・誰にも分かりやすく、美しいプレゼンテーションの学習 ・模型撮影とライティング・レイアウト・スケジュール管理 ・クラス講評会 ・合同講評会:プレゼン能力の向上、他人の作品研究、モチベーションの維持 などを目的とし、課題の区切り・まとめとして行なう
第49回～ 第51回～ 第53回～	9. 進級制作 「集合住宅 —都市と自然を感じる暮らし—」 の設計	・要項説明、敷地設定の検討 ・コンセプト:要求や条件からテーマやイメージを決める ・ダイアグラム:計画の要点や特徴を文章や図を用いて簡潔に表現する ・エスキス①:機能やデザインに基づくゾーニングや動線をまとめる ・エスキス②:ボリュームや外部施設、必要諸室、面積、構造、設備の検討 :スタディ模型による立体的な観点からの検討
第57回～		・プランニング①:徐々に抽象的なコンセプトを具体的なカタチにしてゆく ・プランニング②:エスキス検討を繰り返しつつ、各図面のスケッチを描く ・プランニング③:配置図・平面図・断面図等の作成と、各種検討作業を継続する ・プランニング④:必要図面表現を明確にし、実際の作図を実施する
第65回～		・パース・模型①:計画意図を明確に伝えるための内外イメージの具現化 ・パース・模型②:スケッチ、パース、模型等による表現 ・プレゼンテーション:誰にも分かりやすく、美しいプレゼンテーションの学習
第69回～ 第71回～ 第72回		・クラス講評会:他の人の考えや表現を見て、自らの計画にフィードバックする ・合同講評会:プレゼンテーションや他の人の作品研究を通して、今後の制作へ 向けたモチベーションや知識、技術の向上を目指す

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築CAD演習	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	2単位(72時間)	開講・履修期	2025年度:1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	仲本 国照(建築士事務所での施工図・仮設計画図・BIM作図および現場常駐等の実務経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	汎用CADをメインとして、その他いくつかのソフトの基本的な使い方を学ぶ。建築実務におけるCADや3Dモデルといった、デジタルならではの表現を中心に学習する。そして、作成したデジタルデータを素材として、デジタルプレゼンテーションを完成させることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を基本とし、図面を作成する過程で各種のコマンド操作やCAD図面の作図方法、印刷方法を学ぶ。また、小テストを実施して各自のスキルアップを確認できるようにする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 初回ガイダンス	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2回	2. インストール	CADのインストールとユーザー登録についての説明
第3回～第4回	3. CADの基本操作演習1	CADの特徴と基本的な設定、重要コマンドの概略を説明 各レイヤーや線種等の設定を踏まえた作図を習得する 図形の描画方法を学ぶ。直線、円、円弧、削除と取消を習得する
第5回～第7回	4. CADの基本操作演習2	図形の修正方法を学ぶ。選択方法、移動、複写や隅部の処理方法を習得する 画層(レイヤー)の管理と操作方法を学ぶ。画層の概念について解説し、管理方法 画層の使いこなし方とそれによる効率のよい図面の描き方を習得する 図形以外のオブジェクトとして、文字及び寸法線の入力方法を習得する モデル空間を学ぶ。基本的な効率のよい印刷方法を習得する。
第8回～第17回	5. CADで作成する実施図面1	平面図講義 平面図作図演習①(住宅木造二階建て、または、共同住宅RC造3階建て)
第18回～第22回	6. CADで作成する実施図面2	平面図作図演習②(住宅木造二階建て、または、共同住宅RC造3階建て)
第23回～第24回	7. CADで作成する実施図面3	立面図作図演習①(住宅木造二階建て、または、共同住宅RC造3階建て)
第25回～第26回	8. CADで作成する実施図面4	断面図作図演習①(住宅木造二階建て、または、共同住宅RC造3階建て)
第27回～第31回	9. CADの応用操作演習1	尺度、印刷スタイルやレイアウト空間といったCADの特性を把握し、正確に出力する方法を学ぶ。レイアウトの基本、複数尺度での表示、異尺度対応を習得する 効率よく作業するための方法を学ぶ。テンプレート、図面間でのコピー、ブロック、ハッチング、表の作成、図面情報の管理等を用いた図面作成方法を習得する
第32回～第36回	10. デジタルデータのプレゼンテーション	プレゼンテーション講義 これまでに作成したCAD図面、3Dモデル、デジタルパースなどを素材に、一つのプレゼンテーションソフトにまとめ、実際に発表する

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	デジタルデザイン I	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	3単位(92時間)	開講・履修期	2025年度:1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	仲本 国照(建築士事務所での施工図・仮設計画図・BIM作図および現場常駐等の実務経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	AutoCADソフトの基本的な使い方を学ぶ。建築実務におけるCAD製図ならではの表現を中心に学習する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を基本とし、図面を作成する過程で各種のコマンド操作やCAD図面の作図方法を学ぶ。また、小テストを実施して各自のスキルアップを確認できるようにする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 初回ガイダンス	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2回	2. インストール	CADのインストールとユーザー登録についての説明
第3回～ 第8回	3. CADの基本操作演習1	CADの特徴と基本的な設定、重要コマンドの概略を説明 各レイヤーや線種等の設定を踏まえた作図を習得する 図形の描画方法を学ぶ。直線、円、円弧、削除と取消を習得する
第9回～ 第18回	4. CADの基本操作演習2	図形の修正方法を学ぶ。選択方法、移動、複写や隅部の処理方法を習得する 画層(レイヤー)の管理と操作方法を学ぶ。画層の概念について解説し、管理方法 画層の使いこなし方とそれによる効率のよい図面の描き方を習得する 図形以外のオブジェクトとして、文字及び寸法線の入力方法を習得する モデル空間を学ぶ。基本的な効率のよい印刷方法を習得する。
第19回～ 第46回	5. CADで作成する 実施図面	平面図講義 平面図作図演習① 平面図作図演習② 平面図作図演習③ 立面図作図演習① 立面図作図演習② 断面図作図演習① 断面図作図演習②

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築計画Ⅱ	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	4単位(72時間)	開講・履修期	2025年度・2年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	大久保良太（建築設計事務所で住宅・オフィス・ホテル・駅等の設計管理とコンペの経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	各用途別に建築計画の基礎知識を修得する。 建築計画の流れや、企画から基本計画、基本設計を行うために必要な、計画上の基礎知識の修得を目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、演習の時間も適宜取り入れる。また、テキストだけでは分かりにくい部分は、スライドやDVDなどの教材を利用し学生の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回 第2回	ガイダンス 集合住宅	授業内容の解説 定義、階数で分類、断面形式 アクセス形式で分類 共用廊下、共用階段の計画 エレベーター（昇降機）の計画 エントランス、駐車場の計画
～第9回 第10回	図書館	住戸内部の計画 定義、種類 機能、出納システム 配置計画
～第16回 第17回	美術館	平面計画（開架閲覧室～BM車庫）、断面計画 定義、種類、配置計画 6つの機能、平面構成 展示部門の計画：展示機能、展示形式、動線計画 巡回形式、展示部門以外の平面計画 断面計画、採光計画（自然採光方式） 平面計画の演習1 平面計画の演習2
～第24回 第25回	小学校	前期建築計画のまとめ 歴史、種類、通学区域 学級運営の方式 配置計画 ブロックプラン 平面計画、断面計画
～第30回 第31回	オフィスビル	各室の計画 歴史、定義、種類 敷地の条件と配置計画 空間構成 レントابل比 賃貸形式、規模計画 コアシステム 平面計画 断面計画 エレベーターの計画 これからのオフィスビル1 これからのオフィスビル2
～第36回		建築計画のまとめ

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築法規Ⅱ	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	4単位(72時間)	開講・履修期	2025年度・2年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	山本 寛(設計事務所で、住宅や商業施設の設計管理業務及び資格予備校の講師に従事している経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	建築法規Ⅱでは建築法規Ⅰの続編として、実務レベルに必要な範囲の建築基準法をマスターする。また建築物の実施設計等に必要な建築基準法以外の法律、例えば建築士法・住宅品質確保法等の関係法令も理解する。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とする。建築関連法令集の法文を解説し、建築士試験を意識した演習課題を行うことにより理解を深める。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 高さ制限①	絶対高さ：用途地域等により、建築物の高さが制限される事を解説
第2回	高さ制限②	道路斜線：前面道路の幅員等により、建築物の高さが制限される事を解説
第3回	高さ制限③	隣地斜線：隣地境界線からの離隔距離等による高さ制限の解説
第4回	高さ制限④	北側斜線：北側隣地境界線・北側道路からの離隔距離等による高さ制限の解説
第5回	高さ制限⑤	斜線制限の緩和：各種の斜線制限が緩和される条件を解説
第6回	高さ制限⑥	日影規制：日影による中高層建築物の高さ制限を解説
第7回		振り返り・確認テスト・・・これまでの振り返りを行い、基本的事項の再確認を行う
第8回	2. 避難施設等①	廊下：廊下幅員の特例について解説
第9回	避難施設等②	出入り口：客席からの出口の戸、及び屋外への出口の戸について解説
第10回	避難施設等③	避難階段：2以上の直通階段が必要な建築物の条件、及び避難階段の種類等について解説
第11回	避難施設等④	排煙設備について、その設置条件及び構造等について解説
第12回	避難施設等⑤	非常用照明・非常用進入口・非常用EVについて、その設置条件及び構造等について解説
第13回		振り返り・確認テスト・・・これまでの振り返りを行い、基本的事項の再確認を行う
第14回	3. 構造計算及び構造強度①	構造計算：建築設計において、構造計算が必要か不要かの判定方法を解説
第15回	構造計算及び構造強度②	木造：地震、台風に安全な木造建築物を造る為、柱の小径・必要軸組長さ等を解説
第16回	構造計算及び構造強度③	補強コンクリートブロック造：地震で倒壊しない塀の構造等を解説
第17回	構造計算及び構造強度④	鉄骨造：鉄骨造の材料・有効細長比・接合・高力ボルト等を解説
第18回	構造計算及び構造強度⑤	鉄筋コンクリート造：柱・床版・はり・耐力壁の構造等を解説
		振り返り・確認テスト・・・これまでの振り返りを行い、基本的事項の再確認を行う
第19回	4. 防火規定①	防火地域・準防火地域：両地域内の建築構造・外壁・防火戸・看板等に関する建築制限を解説
第20回	防火規定②	準耐火建築物の木造3階建共同住宅：本来は耐火建築物にすべき建築物が、例外として、一定条件を満足すれば準耐火建築物で建てられる事を解説
第21回		
第22回	防火規定③	内装制限を受ける建築物：内装制限を受ける建築物の条件について解説
第23回	防火規定④	内装制限を受けた建築物の内装仕上材料等について解説
第24回	防火規定⑤	防火区画：面積区画・高層区画・縦穴区画・異種用途区画の条件、及びその構造等について解説
第25回	防火規定⑥	防火区画：面積区画・高層区画・縦穴区画・異種用途区画の条件、及びその構造等について解説
第26回	防火規定⑦	防火壁・界壁・間仕切壁・隔壁：4種類の壁についてその適用条件を解説
第27回		振り返り・確認テスト・・・これまでの振り返りを行い、基本的事項の再確認を行う
第28回	5. 建築確認申請及び建築手続き①	建築物の設計において、建築確認申請が必要か不要かの判定方法を解説
第29回	建築確認申請及び建築手続き②	建築物の設計において、建築確認申請が必要か不要かの判定方法を解説
第30回	建築確認申請及び建築手続き③	中間検査・完了検査の必要な時期、及びその申請方法について解説
第31回	建築確認申請及び建築手続き④	定期報告・工事届、除却届等：各種届出の時期及び届出方法について解説
第32回	建築確認申請及び建築手続き⑤	演習問題による実習を通して、各種届出について理解
第33回		振り返り・確認テスト・・・これまでの振り返りを行い、基本的事項の再確認を行う
第34回	6. その他関連法令①	建築士法：1級・2級・木造建築士が設計監理できる建築物の条件について解説
第35回	その他関連法令②	建築士法：建築士の業務・事務所の規定等について解説
第36回	その他関連法令③	住宅品質確保法：住宅品質確保法の用語の定義、及び新築住宅の瑕疵担保責任等について解説

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築構造力学Ⅱ	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	4単位(72時間)	開講・履修期	2025年度・2年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	瀧波 龍太郎（建築設計事務所で、住宅、事務所、等の建築意匠の設計・監理業務に従事した経験を活かした授業を行う。）				
授業の到達目標	建築物を設計するにあたって、フレーム及び部材の断面にどのように力が作用し、その時の力の大きさと強さがフレーム及び断面に与える影響、安全性について学ぶ。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、演習の時間も取り入れ、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	建築構造力学Ⅰの復習1	片持梁の応力解析
第2回	建築構造力学Ⅰの復習2	単純梁の応力解析
第3回	応力解析1～	静定構造物(片持梁系ラーメンの集中荷重について)解説
第4回		静定構造物(片持梁系ラーメンの集中荷重について)演習①
第5回		静定構造物(片持梁系ラーメンの集中荷重について)演習②
第6回	応力解析2～	静定構造物(片持梁系ラーメンの等分布荷重について)解説
第7回		静定構造物(片持梁系ラーメンの等分布荷重について)演習①
第8回		静定構造物(片持梁系ラーメンの等分布荷重について)演習②
第9回	応力解析3～	静定構造物(単純梁系ラーメンの集中荷重について)解説
第10回		静定構造物(単純梁系ラーメンの集中荷重について)演習①
第11回		静定構造物(単純梁系ラーメンの集中荷重について)演習②
第12回		静定構造物(単純梁系ラーメンの集中荷重について)演習③
第13回	応力解析4～	静定構造物(単純梁系ラーメンの等分布荷重について)解説
第14回		静定構造物(単純梁系ラーメンの等分布荷重について)演習①
第15回		静定構造物(単純梁系ラーメンの等分布荷重について)演習②
第16回		静定構造物(単純梁系ラーメンの等分布荷重について)演習③
第17回	静定トラス1	静定トラスとは、静定トラスの各部材に生じる力
第18回	静定トラス2～	接点法による応力解析、解説と演習①
第19回		接点法による応力解析、演習②
第20回	静定トラス3～	切断法による応力解析、解説と演習①
第21回		切断法による応力解析、演習②
第22回		切断法による応力解析、演習③
第23回	断面の性質1	断面一次モーメントと図心、解説と演習
第24回	断面の性質2～	断面二次モーメント、解説と演習①
第25回		断面二次モーメント、演習②
第26回	断面の性質4	断面係数、断面二次半径、断面の主軸
第27回	構造材料の力学的性質	応力度について(垂直応力度、せん断応力度、曲げ応力度)解説
第28回	部材に生じる応力度1	圧縮力を生じる部材、長柱公式(オイラー式)、解説と演習
第29回	部材に生じる応力度2	せん断応力度、解説と演習
第30回	部材に生じる応力度3	最大せん断応力度、演習
第31回	部材に生じる応力度4	曲げ応力度、解説と演習
第32回	部材に生じる応力度5～	最大曲げ応力度、演習①
第33回		最大曲げ応力度、演習②
第34回	不静定構造物1～	たわみについて
第35回		たわみ角について
第36回		不静定ラーメンについて

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

製図専門課程（工業）

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	建築工法の概論	授業ガイダンス、構法の変遷
第2回	鉄骨構造①	その他の鉄骨構造(1)
	鉄骨構造②	構造形式の分類・特徴(2)
	鉄骨構造③	材料性質(1)
	鉄骨構造④	材料性質(2) 演習問題
	鉄骨構造⑤	接合方法・分類・特徴
	鉄骨構造⑥	機械的接合(1)
	鉄骨構造⑦	機械的接合(2)
	鉄骨構造⑧	冶金的接合(1)
	鉄骨構造⑨	冶金的接合(2)
	鉄骨構造⑩	冶金的接合(3)
	鉄骨構造⑪	骨組(1)
	鉄骨構造⑫	骨組(2)
	鉄骨構造⑬	骨組(3)
	鉄骨構造⑭	その他の鉄骨構造(1)
	鉄骨構造⑮	その他の鉄骨構造(2) 演習問題
～第18回	鉄骨構造⑯	まとめ・復習講義・演習問題

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築材料	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	2単位(36時間)	開講・履修期	2025年度・2年(後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	伊東 秀紀（総合建設業で商業施設の新築・改修の施工管理業に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	建築を学ぶ上において、建築材料は基礎となる。建物に使用される各種材料の製造方法や、基本的な性質を理解し、建築物への用い方や工法上の注意事項などを学習する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVD、材料サンプルなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュールなど、ルーブリック表及びシラバスの解説
第2回	建築材料の概要1	建築材料の歴史
第3回	建築材料の概要2	建築材料と規格、環境
第4回	建築材料の概要3	建築材料の分類、性能
第5回	防水材料 1	防水の種類
第6回	防水材料 2	アスファルトの歴史、種類、防水材料
第7回	防水材料 3	まとめ・問題演習
第8回	ガラス1	ガラスの歴史・種類・製法
第9回	ガラス2	まとめ・問題演習
第10回	左官材料	種類、用途
第11回	左官材料	性質、施工
第12回	左官材料	まとめ・問題演習
第13回	塗装材料	種類、用途、性質、施工
第14回	塗装材料	まとめ・問題演習
第15回	その他材料①	各種概要 演習問題①
第16回	その他材料②	各種概要 演習問題②
第17回	その他材料③	各種概要 演習問題③
第18回	学習のまとめ	まとめ・問題演習

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築施工	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	4単位(72時間)	開講・履修期	2025年度・2年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	伊東 秀紀（総合建設業で商業施設の新築・改修の施工管理業に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	建築施工に関わる基礎を習得する。 建築施工の流れや、契約から鉄筋コンクリートの躯体ができるまでを中心に、施工方法等の基礎的な知識を習得する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVD、材料サンプルなどの教材を使用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・建築施工について、シラバス及びルーブリック表の解説など
第2回	契約	請負とは、請負契約図書
第3回	施工計画1	施工計画とは、施工計画書
	施工計画2	工程表
	管理計画1	管理業務、材料管理
～第6回	管理計画2	安全管理、申請業務、建設廃棄物
第7回	工事準備	工事準備
第8回	地盤調査	地盤調査
第9回	仮設工事1	共通仮設
第10回	仮設工事2	直接仮設
第11回	地盤・土工事・基礎1	工事順序、根切、排水
	地盤・土工事・基礎2	山留、地業
～第13回	地盤・土工事・基礎3	杭工事
第14回	鉄筋コンクリート	工事の流れ、鉄筋コンクリートとは
第15回	鉄筋工事1	鉄筋の種類、加工
第16回	鉄筋工事2	空き寸法、かぶり厚さ
第17回	材料実験①	レポート作成 概要説明①
第18回	材料実験②	レポート作成 概要説明②
第19回	鉄筋工事3	組立
	鉄筋工事4	定着
～第21回	鉄筋工事5	継手
第22回	型枠工事1	型枠とは
	型枠工事2	型枠の材料
	型枠工事3	型枠の加工・組立
～第25回	型枠工事4	型枠の解体
第26回	コンクリート工事1	コンクリートの材料
	コンクリート工事2	コンクリートの調合と強度
	コンクリート工事3	レディミクストコンクリート
	コンクリート工事4	コンクリートの運搬
	コンクリート工事5	コンクリートの打込み①
	コンクリート工事6	コンクリートの打込み②
	コンクリート工事7	コンクリートの養生
	コンクリート工事8	コンクリートの品質管理
～第35回	コンクリート工事9	各種コンクリート
第36回	学習のまとめ	まとめ・演習問題

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築設備	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	4単位(72時間)	開講・履修期	2025年度・2年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	瀧波 龍太郎（建築設計事務所で、住宅、事務所、等の建築意匠の設計・監理業務に従事した経験を活かした授業を行う。） 本間 修市（空調設備会社、建築設備事務所で施工管理、設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	建築設備（給排水衛生設備・空気調和設備・電気設備）の基礎的な知識を習得する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回 ～第3回 第4回	建築設備概論 給排水衛生設備 給水設備 給湯設備 排水通気設備 衛生器具設備 消火設備 換気設備 空気調和設備	建築設備とは、建築設備の役割について解説。 建築設備の種類と構成、および建築計画と設備計画の解説。 地球環境問題と建築設備、省エネルギー、維持管理などの解説 給排水衛生設備の役割と目的および構成について解説。 水の種類、化学的特性、物理的特性について解説。 給水設備の目的、水道施設と水道の種類について解説。 水道水の水質基準の紹介、給水方式の解説。自宅の給水量を9日間実測し考察。 使用水量と給水器具の必要水圧、受水槽・高置水槽の構造について解説。 給水管の管径計算、揚水ポンプ能力の算出計算の実習。 湯の性質、給湯温度と使用温度について解説。 給湯方式および給湯配管注意事項について解説。 排水通気設備の目的、排水の種類と排水方式について解説。 トラップ、通気管種類、排水管名称について解説。 排水槽の構造、間接排水について解説。 雨水排水管の口径計算について実習。 衛生器具の概要、洋風大便器、洗面器ほかの種類について解説。 衛生器具の設置計画、必要個数について解説。 燃焼の3要素、消火の方法および消火設備の基本事項について解説。 消火器、消火栓、スプリンクラー、連結送水管、連結散水設備について解説。 換気設備の目的および第1種から第3種換気方式を解説。 換気量算定の手法を解説し、換気量を計算。 空気調和設備の目的と構成について解説。 室内環境基準7項目の内容、温熱感覚を解説。 空気線図の読み取り方を解説し、加湿量の算定を実習。 顕熱と潜熱の違いから顕熱変化、潜熱変化を解説。 空調負荷計算の概要を解説。 空調方式の種類と特徴を解説。 冷房暖房時の空気線図上の動きを解説。 中央式空気調和機のシステム全体の解説。 空調機器（熱源装置、熱搬送機器、空調機、熱交換器など）種類・特徴を解説。 ダクトのサイズ算定方法の概要を解説 電気設備の役割、構成、関連法規の解説。 電気の基礎知識。周波数、電流、電圧、電力の解説。 受変電設備の解説。受電・配電方式の解説等。 幹線設備の解説。遮断器の種類、幹線の配線方式、配線方法の注意点など。 照明用語の解説。照明器具の種類と特徴の解説。照明方式の紹介。 光束法による照度計算。建築化照明の種類と特徴の解説。
～第18回 第19回 ～第21回 第22回 ～第31回 第32回 ～第36回		

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	広域建築実務Ⅱ	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	3単位(46時間)	開講・履修期	2025年度:2年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	有泉 太一郎(主宰する建築設計事務所で、様々な設計監理業務に従事した経験を活かした授業を行う。)				
授業の到達目標	「デジタルデザインⅡ」で学習した基本操作を補い、覚えた機能を実務に展開する。				
授業の概要及び特徴	学習形式はオンラインを主とする。「デジタルデザインⅡ」で習得した技術を自身で考えた作品に応用する。手描きのスケッチからBIMソフトへの展開、プレゼン資料の作成等のテクニックなどを習得する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 建設業界の現況	ガイダンス。ここからの授業の進め方
第2回	2. レイアウトの基本	↓ 既存データの操作方法や印刷する方法
第3回	3. デジタルツールの習得-1	↓ (オンライン教材中心) Archicad
第4回	4. デジタルツールの習得-2	↓ Archicad
第5回	5. デジタルツールの習得-3	↓ Archicad
第6回	6. デジタルツールの習得-4	↓ Archicad
第7回	7. デジタルツールの習得-5	↓ Archicad
第8回	8. デジタルツールの習得-6	↓ Archicad
第9回	9. 箱型建築-1	↓ 箱型建築の設計
第10回～ 第23回	10. 箱型建築-2	↓ 箱型建築のモデリング 平面・立面・断面・レイアウト等の編集

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築製図Ⅱ	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	2単位(72時間)	開講・履修期	2025年度:2年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	奥田 祥吾（主宰する建築設計事務所で、様々な設計監理業務に従事した経験を活かした授業を行う。）				
授業の到達目標	鉄骨造の基本や特徴を、実際の図面を模写することによって、より深く理解する。同時に図面を作成する時の決まりや記入すべき事項、さらに手書き図面の表現方法などを習得する。各種図面の読み方、図面相互関係の参照の方法、各部名称、納まり、各部詳細についても理解する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とする。「定番 建築製図入門」を使用し、鉄骨造の基本や特徴を、実際の図面を模写することによって、より深く理解する。これを理解し実感してもらうためには、期限内に作品を完成させることを最優先している。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業の位置付け、評価方法
第2回	鉄骨造	図面の名称・内容、図面の読み方、図面を描く上での注意点
第3回	鉄骨造図面1～	配置1階平面図、配置図講義＋作図演習①
第4回		配置1階平面図、配置図作図演習②
第5回		配置1階平面図、平面図講義①
第6回		配置1階平面図、平面図講義②＋作図演習①
第7回		配置1階平面図、平面図作図演習②
第8回		配置1階平面図、平面図作図演習③
第9回		配置1階平面図、平面図作図演習④
第10回		配置1階平面図、平面図作図演習⑤
第11回	鉄骨造図面2～	2階平面図、平面図講義①
第12回		2階平面図、平面図講義②＋作図演習①
第13回		2階平面図、平面図作図演習②
第14回		2階平面図、平面図作図演習③
第15回		2階平面図、平面図作図演習④
第16回		2階平面図、平面図作図演習⑤
第17回	鉄骨造図面3～	立面図、立面図講義①
第18回		立面図、立面図講義②＋作図演習①
第19回		立面図、立面図作図演習②
第20回		立面図、立面図作図演習③
第21回		立面図、立面図作図演習④
第22回		立面図、立面図作図演習⑤
第23回	鉄骨造図面4～	断面図、断面図講義①
第24回		断面図、断面図講義②＋作図演習①
第25回		断面図、断面図作図演習②
第26回		断面図、断面図作図演習③
第27回		断面図、断面図作図演習④
第28回	鉄骨造図面5～	矩計図、矩計図講義①
第29回		矩計図、矩計図講義②＋作図演習①
第30回		矩計図、矩計図作図演習②
第31回		矩計図、矩計図作図演習③
第32回		矩計図、矩計図作図演習④
第33回		矩計図、矩計図作図演習⑤
第34回		矩計図、矩計図作図演習⑥
第35回		矩計図、矩計図作図演習⑦
第36回		矩計図、矩計図作図演習⑧

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築設計Ⅱ	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	2単位(76時間)	開講・履修期	2025年度:2年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	加瀬谷章紀(建築設計事務所で、福祉施設、宿泊・研修施設、集合・戸建住宅、等の設計監理に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	設計Ⅰで学んだ住宅の設計を基礎にして、集合住宅・美術館等の公共性が高く、比較的大規模な建物の設計に取り組む。様々なプログラムを短期間に解き、カタチに昇華させる訓練を積むことを目的とする。また、実例の詳細な調査や各種情報交換をし、スケジュール管理まで含めた実務的な仕事の手順で高いレベルでの「作品」の完成に導く。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考建物の見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。作品は全て個人またはグループによる創作である。コンセプトを現実のカタチにまで造り上げることが、現在学んでいる多くの他の授業の統合である。これを理解し実感してもらうためには、期限内に作品を完成させることを最優先している。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ 第3回～ 第5回～ 第7回～ 第9回～ 第13回～ 第15回～ 第17回～ 第19回～ 第20回	1. 「街とつながる美術館」	・要項説明、敷地調査:課題説明と要求図面などを解説 ・コンセプト:集合住宅では単に「住む」という機能だけではなく、住人達の為のコミュニティの核となる空間を考え、周辺環境や設定条件などにも配慮するように指導 ・ダイアグラム:計画の要点や特徴を文章や図を用いて簡潔に表現する ・エスキス①:機能やデザインに基づくゾーニングや動線をまとめる ・エスキス②:ボリュームや外部施設、必要諸室、面積、構造、設備の検討 :スタディ模型による立体的な観点からの検討 ・プランニング①:詳細に検討された住戸の平・断面図、集合住宅に必要な共用部分の作図及び街並みなどを配慮した外構計画を中心に指導 ・プランニング②:配置図・平面図・断面図等の作成と、各種検討作業を継続する ・プランニング③:必要図面表現を明確にし、実際の作図を実施する ・パース・模型:計画意図を明確に伝えるための内外イメージの具現化 ・プレゼンテーション:誰にも分かりやすく、美しいプレゼンテーションの学習 ・クラス講評会:他の人の考えや表現を見て、自らの計画にフィードバックする ・合同講評会:プレゼンテーションや他の人の作品研究を通して、今後の制作へ向けたモチベーションや知識、技術の向上を目指す
第21回～ 第23回～ 第25回～ 第27回～ 第29回～ 第31回～ 第33回～ 第35回～ 第37回～ 第38回	2. 「アトリウムと交流施設をも	・要項説明、敷地調査:課題説明と要求図面などを解説 ・コンセプト:美術館では敷地のある町(都市)に対して教育・文化そして活性化や経済的効果などの影響も考慮した計画となるように指導 :講義科目の「建築計画Ⅱ」・「法規」等とリンクさせながら「公共性」という観点に立ったときに必要な機能や法規について具体的に指導 ・ダイアグラム:計画の要点や特徴を文章や図を用いて簡潔に表現する ・エスキス①:機能やデザインに基づくゾーニングや動線をまとめる ・エスキス②:ボリュームや外部施設、必要諸室、面積、構造、設備の検討 :スタディ模型による立体的な観点からの検討 ・プランニング①:美術館特有の所要室とその配置・規模などに注意するとともに、公共建築としてふさわしいデザインとその図面表現の指導 ・プランニング②:配置図・平面図・断面図等の作成と、各種検討作業を継続する ・プランニング③:必要図面表現を明確にし、実際の作図を実施する ・パース・模型:計画意図を明確に伝えるための内外イメージの具現化 ・プレゼンテーション:誰にも分かりやすく、美しいプレゼンテーションの学習 ・クラス講評会:他の人の考えや表現を見て、自らの計画にフィードバックする ・合同講評会:プレゼンテーションや他の人の作品研究を通して、今後の制作へ向けたモチベーションや知識、技術の向上を目指す 課題全体を通しての振り返りを行い、次のステップへの糧とする

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）					
科目名	デジタルデザインⅡ	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	3単位(92時間)	開講・履修期	2025年度：2年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	有泉 太一郎（設計事務所を主宰する一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	「デジタルデザインⅡ」では、近年、建築業界で急速に普及し、注目を浴びている最新設計ツールであるBIMを、その基礎から学ぶ。具体的には、BIMの概念の理解から始まり、BIMソフト「ArchiCAD」の基本操作、そして作成した三次元モデルから二次元の建築図面を作成する。最終的に複数のソフトを使い、デジタルプレゼンテーションまで行えることが、目標である。				
授業の概要及び特徴	学習形式はオンラインを主とする。教員が実際にパソコンを操作し、その様子を動画で学生に見せながら学ばせる。そのうえで、学生は自ら手を動かし、その操作や機能などを体で実感しながら学んでゆく。基本的なモデルを提示し、全員が同じペースで基本を学ぶが、その後徐々にそれぞれ自分のデザインをベースに作業を進め、最終的には、学生個々の習熟度に見合ったオリジナルの成果物とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				
回	授業項目	授業の計画及び内容			
第1回～	1. BIMの基本的な概念	ArchiCADの概念・BIMで何ができるのか・BIMを使った仕事の流れなどについて ↓			
第4回～	2. ArchiCADの基本操作① BIMのガイドライン	ArchiCADの基本とBIMガイドラインの理解 ↓			
第8回～	3. ArchiCADの基本操作② BIMの環境設定	ArchiCADの基本と環境設定 ↓			
第12回～	4. ArchiCADの基本操作③ モデルの作成	ArchiCADのモデリング ↓			
第16回～	5. ArchiCADの基本操作④ 立面図の作成	ArchiCADによる立面図の作成 ArchiCADによる編集及び修正方法 ↓			
第20回～	ArchiCADの基本操作⑤	ArchiCADによる断面図の作成			
第24回～	6. 断面図の環境設定作成	ArchiCADによる編集及び修正方法 ↓			
第30回～	7. ArchiCADの基本操作⑥ 平面図の作成	ArchiCADによる平面図の作成 ArchiCADによる編集及び修正方法 ↓			
第34回	8. ArchiCADの基本操作⑦ パースの作成	ArchiCADによるパースの作成 レンダリングによる内観及び外観パースの作成方法 ↓			
第34回	9. プレゼンテーション レイアウト	内観及び外観パースの調整 ↓ PowerPointでまとめる → プレゼンテーション ↓			
第42回～	10. 設計課題への応用	規定用紙へのレイアウト 設計課題への応用 ↓			
第46回		設計課題への応用及びプレゼンテーション資料の作成			

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	卒業制作	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	4単位(146時間)	開講・履修期	2025年度:2年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	加瀬谷章紀(建築設計事務所で、福祉施設、宿泊・研修施設、集合・戸建住宅、等の設計監理に従事した経験を活かし授業を行う。) 神山 義浩(実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	「卒業制作」では、敷地の選定、企画の立案等を自分で設定し、敷地・構造・規模などを調査・選定する。法規、構造、施設用途、建物コンセプト等、現実にも即したものであるとして仕上げることを目的とする。さまざまな事例の詳細な調査や各種情報交換をし、スケジュール管理まで含めた実務的な仕事の手順で「作品」の完成に導く。社会での疑似体験と考え、決められた期限内に満足のゆく作品を完成させる。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考建物の見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。作品は全て個人またはグループによる創作である。コンセプトを現実のカタチにまで造り上げることは、現在学んでいる多くの他の授業の統合である。これを理解し実感してもらうためには、期限内に作品を完成させることを最優先している。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものである。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ 第4回 第5回～ 第24回	課題及び要項説明 敷地調査 要項作成 エスキス① エスキス② エスキス③ エスキス④	・「卒業制作」の課題説明と要求図面などを解説 ・設定した敷地や周辺環境の調査を行う ・プログラム等各種設定を作成 ・多様化する社会、変化する社会のなかで建築の在り方、あるべき姿とは何かを考え、これまでに学んだ知識や技術の集大成として表現できるよう指導 ・コンセプト・敷地・構造などは自由であるが、規模やテーマはやはり、卒業制作に相応しいものとして、綿密な打ち合わせを行う
第25回～ 第28回	中間発表	・エスキスやスタディ模型を使って各自のコンセプトや表現したい事を発表し、完成に向けて最後の微調整を指導
第29回～ 第57回	図面・模型の作成① 図面・模型の作成② 図面・模型の作成③ 図面・模型の作成④ 図面・模型の作成⑤	・決められた期限、様々な制約のなかで作品を完成させるためには、日常生活パターンや健康管理などを含め、あらゆる面において自己コントロールが必要 ・更にはさまざまな場面で孤独な決断を強いられ、完成に向けて何を優先させ、何を捨てるのかといったアドバイスも行なう
第58回～ 第65回	プレゼンテーション① プレゼンテーション②	・模型写真、パース表現、コンセプトのまとめ方及び全体レイアウトなどを指導
第66回～ 第69回	クラス講評会	・他の人の考えや表現を見て、自らの計画にフィードバックする ・プレゼンテーションや他の人の作品研究を通して、今後の制作へ向けたモチベーションや知識、技術の向上を目指す
第70回～ 第73回	合同講評会	・最後の講評会で、プレゼンテーションや他の人の作品研究を通して、もう一度「建築」を学んだ学生として、「講評会」で発表する意義を考える

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週